

(初稿 2008.8.26, 追加 2010_1_17)

背中の痛み

背中が痛い痛いと言っていて、ガンだったという話を聞く。「さくじ」さん当時44歳は、背中が痛いと言っているうちに「胃がん」が発見されたが、切除手術して直り、長生きした。この人は学者で、いつも机に座って作業していた。

大阪の「のぼちゃん」は背中が痛い痛いと言っていて「すい臓がん」が発見され、帰らぬ人となった。職業は理容師だった。

おそらく、背中が痛くてあとでガンが発見されるケースは私の知っている以上に多いに違いない。背中の痛みが、ガンの痛みによるものか、ガンの前兆なのかは重要な問題だが、多くの人は「ガンが先にでき、それが膨らんで背中に痛み」を生じたものと考えている。

私も背中が痛い

2008年のことだった、私の場合2月、3月は特にレポート書きに追われ、不自然な姿勢でパソコンに向かい、長時間作業していたことが原因で4月頃から私の背中が痛むようになった。その時私は満63歳の半ばだった。その痛みというのは、夜、寝るときに背中を伸ばすと、うめき声が出るくらい痛いのだが、日中パソコンに向かうとき背中を曲げているせいか、ほとんど痛みは無かった。こんな状況で夜、背中が痛い痛いと思いながら3ヶ月が経過した。8月2日、デパートに行き背広の採寸をしてもらった。私の腹回りは91cmだった。わたしはどんなにお腹が大きくても88cmを越えることは無いという理解であったから、おかしいなと不審に感じたが、気に留めるほどこだわりを持ったわけではない。しかし、その夜ふろに入るとき、脱衣場の鏡を見たところ、右わき腹がナスビ型に膨らんでいることに気がついた。そこで、昼間の採寸時にお腹の周りが太かった原因を理解した。右わき腹が膨らんでいたのだ。前の夜、背中の痛みが少ないと感じたのは、背中の腫れた場所がパンクして水が流れ出したのだろうと推定した。

診察

お腹の膨らみを発見した当日の8月2日は土曜日だった。週末は病院も休みだから、月曜日になるのを待って、勤務地のそばのT病院へ行った。受付で背中が痛いと言ったら、受け付けは整形外科を勧めたが、私は内臓のガンを恐れていたため内科にしてもらった。内科は8部屋くらいあるのだが、受付が私に割り振ってくれた担当の先生はお休みで、代理の先生が診察した。問診で、食欲、吐き気、急激な体重減少、足のむくみの有無などを聞かれ、背中の痛みを指で叩いて確認するが、痛みはほとんどなく、問われた症状が無かったので、問診での所見は特に差し迫った問題はないとのことだった。ただし念のために、血液、腫瘍マーカー、エコーをとりましょうということだった。私は大事無いという診たてにすっかり嬉しくなり、先生に何度もお礼を言った。帰る際に、指示されたとおり血液を採取してもらい、エコーの予約を入れ、担当医師の予約を入れた。

このT病院は大病院であり、来院の患者も多い。エコーは2週間後、担当医師の予約は3

週間後の8月26日となった。少し待ち日数が長い感じだったが、大病院だから仕方がない、と納得だった。

ともかくも、心配している家内には、安心するように携帯からメールを打った。家内から携帯に電話が来て、どこがなんでも無かったのかと聞かれる。経過を説明したが家内には納得がいかない様子だった。

その夜に、矢張り寝る前に背中が痛く、お腹の腫れも引かないので、家内の勧めがあり、背骨の状態を診てもらうこととして、翌日の火曜日、同じT病院の整形外科の先生に診てもらった。整形の先生はレントゲンを撮ってくれた。その結果、背中の部分の背骨には椎間板が見られないとのことで、老化と診断された。シップ薬を処方してもらって、病院を出た。

経過

もらったシップを2-3日試したが、背中痛みはほとんど消えなかった。そこで市販のサロンパスなどを買って来て試したが、あまり効く様子も無い。夜寝るときの痛みは、はじめまっすぐ背中を伸ばして寝るときに痛かったのが、横になっても痛むような感じになった。腫れも引かない。こうしてはじめの1週間は過ぎた。

小さな発見

第2週目のことだった、これまで仰向けに寝て背中を伸ばすと、背骨の内臓側が痛むのだが、最近はいかすかな鈍痛が背中周りに拡散し、昼間も痛みがあるような感じになった。そこで私は、背中痛みとガンとの因果関係を考えるようになった。私の若かりしころ、岡林先生は、裏口入学の疑惑の査問委員長となり、大学教授として正義を実行しようとしてがんばられたが、ガンで無くなった。相当のストレスがあったことと推察される。学園紛争では、多くの先生が体を壊し、ガンで無くなった。ストレスが原因である。私の父の場合は、すい臓のあたりのお腹が痛いといっていたが、ある日突然に肺がんと診断され死んだ。

私の知人で、背中が痛いといって、後からガンが発見された人の職業は、前かがみの姿勢を長時間続けており、当然背中が痛くなる人たちだ。

私はこれらの人々のことを思い出しているうちに、精神的なストレスだけでなく、痛みの原因または痛みそのものも、ガンの引き金を引く可能性があることに気づいた。

おそらく、精神的ストレス同様、痛みが何かに作用し、ガンが発症するに違いない。

実際、癌化した細胞は誰の体内にもあり、ガン発芽の引き金によって、増殖をはじめたり、逆に体内の免疫系に攻撃されたりして消滅すると言われている。もし、この理解が正しいなら、私は来年の今頃、ガンを宣告され、病院のベッドにつながれ、死を待つ状態に置かれているかも知れない。(このことは、私の中での、小さな発見と言える。)

どうすればガンを回避できるのか？もしT病院の先生が私の仮説を聞いたなら、「ばかなことを」と一笑に付すか、怒り出すかであろう。彼らには患者以上の学識と経験があり、プロの誇りがあるのだ。しかし、私から見ると、T病院の能力には疑問を禁じ得ない。簡

単な背中痛みさえ取れない。千葉では私の友人の「前ちゃん」が名の通った大病院で食道がんを放射線治療していたのに、1年経過後、突然、肺がんを発症し亡くなった。大病院で、毎日、毎日重篤のガン患者を診察していると、手遅れの患者を救うことが最優先され、これから発症するかも知れない人の訴えなど取り合う気も起こらないだろう。

背中痛みなどガンでもないのに、かまってもらえない、というのが大病院の先生の正直な心境ではないだろうか。

しかし、私は現在、背中が痛いし、お腹も膨らんでいるのだから、ガンの引き金が引かれた時期に当たるかもしれない。

T病院の診察結果は8月26日まで待たなければならない。診察から24日目だ。

多分、異常なし、となるに違いない。

その後も、「痛い、何も無い」、「痛い、何も無い」を繰り返しているうちに、1年後、「おめでとうございます、ガンが有りました。」となったら、しゃれにもならない。

そのようなシナリオでは、ガンを宣告された時点ではすでに可なり病状は進行しており、手遅れとなっている可能性は高い。

場所が悪ければ死を待つのみ。その前に、がんを叩く方法は無いのだろうか、そう思うようになっていた。

大きな発見

T病院の初診から2週目の通勤途中の事だった、最近、内視鏡手術やら、カテーテル手術など、細い管を患部に差込む手術がはやっているから、ガンに対しては、針のようなものでガンを熱すればガンをやっつけられるのではないかと想像した。会社に着いて、そのような治療方法を試している病院はないか、インターネットで検索した。そうすると針や熱コテでガン手術をするものは発見できなかったけれど、高周波加熱装置のRF8という装置を使った加熱機械が実用化されていることを知った。開発者は京都大学の菅原努さん、安部光幸さんである。わたしは、これで微小ガンを叩く必要性を感じた。インターネットを調べ、この装置で治療を行うことの出来る病院を探したところ、都内に4箇所ばかりあることが分かった。おそらく予約でいっぱいだろう。末期がん患者の対応で精一杯で、私なんか取り合ってなんかくれないだろう。そう思った。しかし、それは杞憂だった。たまたま本郷のKクリニックというところに、インターネットで問い合わせたところ、すぐにも治療が出来るとの返事が来た。それは2008年8月12日のことであった。さっそくそこに赴き、T病院の診療状況を述べ、自分の症状を述べた。それだけでKクリニックとして治療に取り掛かるには十分な情報だった、すぐさま痛む背中の辺りの温熱治療に取り掛かり、45分から50分の加熱を行った。治療法としては加熱と免疫活性剤(注射)の併用だった。料金は2万5千円(初回)だった。2回目からは4万5千円となると知った。治療を続けるうち、M先生の話から、温熱療法はガンの「ボールの芯」のほうに効くが、ガンの「ボールの皮」の方に効きにくいことが分かった。もしそうであれば、は私の場合の「微小」のガンあるいは「初期ガン」に効かないかもしれないではないか。先生に疑問を投げ

かけると、がん細胞は本来熱に弱いとの回答である。こちらあたりは、グレーゾーンというところかも知れない。

温熱を受けながらも、引き続き、インターネットを見るうち、活性リンパによる治療法「活性NK細胞療法」があることを知った。この方法は、患者の血を50ccほど採取して、NK細胞（ナチュラル・キラー細胞）などの抗体を1000倍以上に培養し、患者の体内に点滴で戻す方法である。インターネット情報によると、名古屋の内藤クリニックでは多くの成果を挙げているが東京のT女子医大系列のBクリニックの方はあまり成果を出していない模様だ。この違いはリンパの培養技術（繁殖倍率）と、標的に使ったガン標本の違いであろうか。あるいは、T女子医大のBクリニックのほうがアカデミックな態度で過度の期待をさせない記述になっているのも原因かもしれない。

説明によると、自分のリンパを培養した活性NK細胞が「がん細胞」だけを狙って攻撃するのだから、抗がん剤などに見られる副作用も無いとされている。しかも、内藤クリニックでは、ガン遺伝子を調べ、ガン予報も出せるというのだ。正直「私は助かった」と感じた。

進展

背中痛みとわき腹の膨らみの原因や状態を詳しく知るために、温熱療法のKクリニックの紹介で、CTとMRIを8月18日に受け、その場で結果を得た。Kクリニックをはじめて訪問した時からわずか7日目のことである。ちなみにT病院の進捗のほうは、エコー検査も出来ておらず、更にその結果を聞くのが次の週の8月26日である。

Kクリニックで紹介されたCTでの診断では、ガンと疑わしい病変は見つからなかった。ただし胃と腸は、別途検査しないと完全ではないとのことであった。断層写真ではお腹の膨らみは見られず、腹水がたまっているようには見えないとのことであった。多分、上向きに寝て、CTを撮る関係上、お腹の膨らみが出なかったのではないかと私は推定した。背骨の並び方も（アラインメント）規則的で、特に問題ないとのことだった。また、背骨の痛んでいる部分の直接的な病変は発見できなかった。

その日を含め、「温熱療法」は都合4回受けた。そこで背中痛みはほとんど消えた。痛みが消えた理由は、主に、温熱療法が患部の血流を促進したことによる、と先生は解説してくれた。一方、お腹の膨らみは、縮小するまでには至らなかった。お腹のふくらみの原因は分からないままだが、ここで、一旦治療を終わることにした。おそらく温熱で免疫を活性化したのと背中痛みを取り除いたことで、将来のガンのリスクを回避できたに違いない。以前想定した最悪のシナリオでは、「背中が痛い痛いと訴える内にガンを発症。手遅れ。」つまり、来年は辞世を書いている頃、と半ば覚悟をしていたのだった。しかし、温熱により、背骨の痛みが取れたので、「背中が痛い。何もない。」を繰り返す内にガンを発症、というスパイラルを断ち切れたと理解した。お金は16万円かかった。

余談であるが、このことはワイフ（家内）に内緒にしていたのだが、先生がアンサーという免疫活性剤を注射した後の脱脂綿を、私が剥がし忘れ、それをワイフが目ざとく見つけ、

ばれてしまった。ワイフは気が狂うばかりに驚き、怒った。彼女にとって、ガンと診断されていない時期から、保険適用外の治療をいきなり受けて、高額のお金を払うなど、想像を絶する暴挙と映ったのであった。彼女から見て、私の行動は新興宗教に魅入られた人間の行動と同じものだった。

追加情報

今回、体当たり探検をしていない「活性 NK 細胞療法」の方は、自分の血液を 50cc 採取し、抗体を培養して体内に戻す方法だ。名古屋の内藤クリニックでは 1 クルー 136 万円（1 回 22 万円を 6 回繰り返す）、東京の日比谷では 1 クルー 185 万円と高価だ。おそらく T 女子医大系列の B クリニックもそのあたりの価格レベルであろう。

一方、いきなり治療に行く前に、内藤先生のほうではガン遺伝子診断が可能である。費用は 25 万円。すなわち、ガン遺伝子診断によってガンマーカーで発見できないレベルのガンを発見できれば、発病前に「活性 NK 細胞」でガンを叩けるから合理的である。しかし、がんの可能性があっても、ワイフ（家内）のような固定観念の人間から見れば、がんを診断されない限り、NK 細胞を増殖させ、活性化して体内に戻す方法を高額で実施するなど論外であろう。ガンと診断されても、保険内での診療しか同意しないかも知れない。もっと安価に活性 NK 細胞療法を提供してくれる病院はないのだろうか、そう思って NK 細胞を検索しているうちに、ついに、免疫を高めるサプリメントにたどり着いてしまった。名前は 4Life トランスファクター・プラス・トライファクター。これは NK 細胞を増やすのではないが、NK 細胞のガン攻撃能力を数倍に活性化するのだ。その原理は昔から知られているように、赤ちゃんが母乳を飲むと、病気にかかりにくいことにある。母乳の中の成分が赤ちゃんの口を経由して赤ちゃんの血中の抗体能力をアップするのだ。トランスファクターは、その後の研究で、人は人だけ、牛は牛だけに効くのではなく、牛のトランスファクター（免疫の攻撃力をアップする）も人間に効くことが知られるようになった。また、その物質を抽出する技術も進歩した。こうして、4Life がはじめ牛の乳を精製してトランスファクターを生産・販売しているうちに思いついたのは、鳥のタマゴにもトランスファクターがあるのではないか、そしてそれは人間にも効くのではないか、ということであった。その見込みは当たった。このようにして口から摂取して血液中の抗体の免疫活性を高める物質・トライファクターが大量に生産・販売されるようになった。

これなら、ガンを未然に叩いて、予防できる可能性は十分にある。

もともと、わたしはサプリメントやシイタケなどの効力を疑っていたので、4Life を信頼することが、私らしくないのだが、今回は違う。活性化 NK 細胞療法のすばらしい効果をインターネットで知った土台に立って、4Life のトランスファクターの効能とその理由を読むと、その合理性を信じる気持ちが強くなる。

4Life のトランスファクターを飲むことによって、NK 細胞のガン攻撃能力をどの程度アップでき、どの程度ガンの発症を未然に摘み取ることができるのか、インターネットで紹介されている佐藤先生などの体験談を見る限り、かなりの効果は期待できそうだ。4Life の

トランスファクターは 60 錠で 8,000 円程度だ。これなら、夫婦喧嘩をしないで円満に話がつくだろう。

結末

温熱での治療の期間はわずか 1 週間という短期間でした。それで背中痛みとガンのスパイラルから抜け出すことに成功しました。念のため、4Life のトランスファクターを 1 瓶買って飲むこととしました。

その後、長く待った 8 月 26 日、T 病院の診断結果は、悪性の腫瘍は見られず、マーカーにも異常なし、であった。

(以上でガンの森冒険記を一旦終わります。ところで、温熱の先生にかかったとき、紹介された田端クリニックで受けた CT によって、ガンではない別のいくつかの病変が見つかりました。その一つは、心臓の冠動脈の石灰化。その治療のことは別の機会に話します。)

追加情報 2

上記を書いたのは 2008 年 9 月のことでした。2010 年 1 月現在、背中痛みは全くなくなり、私は元気に働いています。

その後、がん治療の進歩がどうなったか、ホームページで検索してみました。

その結果、温熱療法の効果の事例が、以前よりも多く掲載されていることがわかりました。私がお世話になった本郷の K クリニックの森先生の、「温熱療法は、がんのボールの芯に効くが、皮に効きにくい」との話は、がんの表面の血流が促され、加熱しにくくなることによると説明されましたが、今回ホームページで分かったことは、血流が増えることによって、少量の抗がん剤投与でもガンに有効に作用する、という効果をもたらしているようです。

名古屋の内藤クリニックの NK 細胞の方は、より、多くの治癒事例を掲載しています。

新しく発見した、横浜駅のそばのクリニックのホームページの記事も NK 細胞、T 細胞、温熱など豊富な対応ができる模様です。

T 女子医大系統のクリニックも自己免疫細胞を増殖して体内に戻す療法ですが、依然控え目な発表ながら、苦痛や体力の損耗をもたらすことなく、がんの成長を抑えて延命効果を発揮しているという、報告がみられます。

以前、インターネットで発見できなかった熱針を用いた治療方法も、今回見つけることができました。それはラジオ波治療(RFA)です。径 1.5 ミリの電極を病変に挿入し、がんを 100 度に熱して死滅させる治療です。1 回の焼灼で 3 センチの範囲を焼き尽くすことができ、元の臓器を取り去らない手術ですから、体力の消耗を最小にしながら、転移しても、再発しても、何度でも、ガンを叩くことができる長所があります。1 個のガンをやっつけるのに、数日の入院でよく、しかも、2004 年から保険が適用になっており、費用が 14 万円くらいで、本人負担が 30%なら、42,000 円の負担ですむそうです。

結論

今後は、多くの場合、目に見えるガンは単刀直入に RFA で治療し、再発防止の目的では、免疫療法やハイパーサーミアが用いられると思います。治療方法の中で、最もお金のかかる療法が、自己免疫培養ですが、この療法が、何故効いたり効かなかったりするのかわかるのか、その理由が分かるためには、あと 15 年はかかるでしょうね。

しかし、一時言われていたように、「病院で全摘出手術、抗がん剤、放射線、再発、体力の限界、医者がさじを投げる」といったパターンは過去のものとなろうとしています。

結論として、現在、癌をわずらったとしても、希望を持ちながら安らかに生涯を閉じることができる技術レベルに達していることが分かりました。

終わり、